

昭和13年2月1日（火）

旧正月一日、各戸商店雨戸を閉じ休業状態なり。巖、朝吹氏来局。巖、局員を夕飯に招きたしと申出づ。局舎内にて菓子、シルコ、駅弁、林檎、蜜柑各一にて朝吹氏を加え、四時五十分より三十分間に涉り会食。曇天、夕方より冷凍。帰宅後更に雑煮一杯食ふ。余り飽食の嫌いあり。ストーブ原料炭なし、木炭にて凌ぐ。風呂沸く、一度入浴。十時寢床。

昭和13年2月2日（水）

快晴、朝霜白し。悦子を負う、背中で眠る。九時出発。切手請求、巖局より運搬し呉る。此の間両氏手紙見る。鶴居長午前中、真坂長、竹井鉄之助氏午後四時来局。竹井氏局長の地位に関し、契約書を差入れあるを余に示し、意見を問わる。公器を私議する不都合に付き話す。五時帰宅。夕食の準備中、悦子を負うて散歩。夕食後も同様、市内に至る。魚町市場には猶、鮮魚多く残留しあり。新年大売り出し、人出少なし。小雨降り出したるに慌てて帰る。午後三時頃まで快晴、午後曇り。

昭和13年2月3日（木）

風微なるも寒気は相当強し。曇天。朝一時間弱悦子負う。九時十分仕度し二十五分到着。中尾氏に葉書を出す。午後陽射しあり。九円余、保険費交付あり。稍（やや）碧空を見る、明日晴天を予想さる。夕餉うどん大丼三杯食し、少々過ぎたる観ありし。十時寢床、如何なる故か容易に眠れず。鼠ガチガチ板を囓る、一時間余継続す。起きて之を逐ふも間もなく再び柿餅を食ふ音して、益々眼冴ゆ。五時までうつらうつらす。節分豆撒きの声聞こゆ。

昭和13年2月4日（金）

此の朝、洋間に鼠居ること判明。巖と征伐す。大きな奴なり。多分、戸が明けられた儘夕方まで放置されたる場合、入込みたるものの如し。逃げ路を造るべく板を囓りしものと見ゆ。九時三十分出勤。十時近く鶴居長来。耶馬溪倶楽部の会場を変更し、料理店に改めたる由、通知あり。十一時近く出発、至れば長野豊後町長と一緒になる。上津局長以下二局新築祝いを兼ねたり。協議は特与費用残高の分配方協議。会計栄町世話人小川氏に各五円、部長に拾円、品物にて送付することとなり、一時より開演。長野氏答辞。三時前、辞して十八分発にて福岡に販る。時に七時。御手洗氏、既に神戸に販りしことと思ひしに、猶居れり。階下に寝る。遅く到着の為、湯煖房なし。風呂に行く。道子等も余帰りて出掛く。寒さ中和す。晴れ。

昭和13年2月5日（土）

曇り。御手洗氏遅く起床。昨夜は何も摂取せず、本朝しるこ白玉粉団子、夜も同断。六時頃より降雨。城西橋柳原氏に至る、余一着。次第に会員参集、桑原、福永各氏来。十二名参集。御手洗氏は朝、道子久子と朝日座活動に至り、二時頃帰来。夜八時二十八分準急下関着、同駅発急行にて神戸に向かいたる由。余は十一時辞去。十二時南新町より歩き販る。局至り、年金受取る。夜、雨甚だし。

昭和13年2月6日（日）

次第に晴天。去る三十日橋本氏来邸せしが、其の次の

日、久子用達に行きし際、林主事と大分酩酊して居るを認めたりと。夕方秀夫来る。夕食を馳走してやる。橋本氏帰宅の際、博多駅にて分袂（ぶんべい）の際、去る一日のことと覚ゆ。夕方より曇天。九時過ぎニュースを聴くに至らず、寝に床く。

昭和13年2月7日（月）

朝降雨、雪となる。屋上白し。六時投函に外出せんとし中止す。中尾貢氏に手紙書き、昨日書きたるミワ氏の分と同時に午後発送す。余の下駄台、中央より割れ新しきものを下ろす。此日外出せず。雪は朝の間にて歇む。午後陽射しありたるも概して曇天、昨日に比し寒し。柳原先生の会合席上、百回噛むと謂ひ切り、爾来試みるに、御数を喰わざれば百余回噛むに差支えなし。其れより必ず百回以上噛むことに注意し、副食物は七八十回噛みたる後に口中に運ぶこととしたるに、具合甚だ良し。

昭和13年2月8日（火）

曇り、甚だ寒し。時に陽の射せしことはあれど、少時して再び曇る。松木氏に手紙返事を認む。昨夜九時に寝床。矢張り本朝起きるとき、眠り甲斐ぬ思ひす。湯煖房修理の部分、損傷を生じたるらし。絆創膏を貼る。明日、新調せんと云ふ。午後六時猶明るし。早く就床しラジオを聴く。九時半のニュースを半分にして消燈、十時頃眠る。風寒し。

昭和13年2月9日（水）

雪降り屋根白し。風強く、夜半硝子戸がたがた震ふ。朝三時頃、目醒時計止まる。捻子（ねじ）かけたり。午後

一時、久子を連れ新柳町市場にて鰯20銭を求め、湯煖房、市内中島町小50、大55、更に川端南にて尋ねたるに、大60、小55と云ふ。玉屋は小50、松屋は大54、即ち松屋より求め来る。販るさ市場より白玉粉18を二袋求め来る。小豆五合16銭は、久子に托して早く戻らせた。時々陽照るも、概して曇り。雪、風と共に吹下す。四時少し前販宅。二郎より小包納豆送付あり。予て注文せしものの如し。早速食事の際、供膳。此日も早く寝床せしも、九時四十分ラジオ止む。

昭和13年2月10日（木）

朝、依然寒風。岡田染四郎へ手紙書く。光邦出征の由に付き、慰問を兼ね金貳円を寄贈せんとす。午後三時桑原氏来邸。幹部会を柳原先生邸にて開催の由、山崎氏より桑原氏に電話あり。自転車にて伝達し序でに余の宅に来られ、多分不在なるべしと想像して見えたるに、在宅に驚かれたり。おしるこ作りし由なるも、去られてから久子より申出あり。餐し能わざりしは遺憾なり。六時二十分頃出発。桑原、松尾、島井の三氏あり。山崎、安藤両氏次いで後れて志波氏来邸。夕飯の馳走あり。余は既に済まして出掛け、志波氏も後れたる為済まして来られ、安藤氏自宅に会合、夕食を共にする。組合の為、時局の認識を深めるべく、其の筋より委嘱され居るとかにて八時前販宅。色々有益な話ありて、十一時過ぎ退散。帰宅は十二時二十分前。夜月明。

昭和13年2月11日（金）

紀元節。十時建国祭、国歌合唱。紀元節歌、愛国行進曲、東方遙拝。ラジオにて余も参加す。碧空珍らしき快

晴、風は幾分寒し。朝しるこ頂く。顔中、飛火腫物出来大いに困る。新聞では此の日の人出の素晴らしさを記載しあり。東公園伏敵銅像前にて記念式、県庁にては自治団体、其の他功労者の表彰式あり。郊外、特に太宰府観梅客多かりし由。和やかな天気と相待って、郊外散策は、詢（まこと）に詔（あつら）え向きの春景色を現出したる観あり。八時半寢床。

昭和13年2月12日（土）

朝の間曇り次第に晴天となる。寝巻乾かす。岡田に久子をして為替貳円を組ませ、光邦出征の餞別を送る。二郎より送越せし金五円の小為替を受取り、余の振替口座に振込ます。憲法発布五十年記念祝典に、功労者故伊藤、大隈、板垣三氏の銅像を議事堂に建立。恩赦の詔勅渙発（かんぱつ）あり。出納官吏弁償免除令の交付もあり。官吏懲戒免除令と共に、天恩洪大（こうだい）刑余者に限らず。国民等しく感注措かざる処とす。九時半より寢床。

昭和13年2月13日（日）

朝曇り、十時頃より一時晴れ。陽光暖かし。午後より再び曇り、予報天気悪くなるとあり。気温は割合暖かなり。午後一時半、山崎氏を住吉新屋の氏の邸に訪ふ。桑原氏も托鉢しあり。十七日の会日は、燈火管制に該当有無に付き尋ぬ。当日該当する場合は延期さるべきに付き、中津に葉書発送方依頼し、直に帰途に就く。序でに柳町市場に至りしに、鰯拾銭に三十尾とあり。余は黒砂糖十七銭を二斤求め、販宅。徒歩するに流汗淋漓。夜風呂に行き髯剃る。夕方より降雨。

昭和13年2月14日（月）

四時半起床時、雨甚だし。終夜降り続きたる如し。朝餉パンを蒸し呉る。時間かかる。四十五分出発、徒歩にて駅に行く。雨降り歇む、途中は大分雨繁し。小倉にても細雨降り、風強く寒し。中津に定時着。此の地は割合に降らぬ様子なり。牛乳暫く振りにて配布を受く。書類机上に堆積、整理に着手す。五時帰る。巖、途中まで悦子を負うて迎ふ。此夜風呂沸き入浴。松田威治氏、日曜に出発せられたる由。餞別貳円贈ると。

昭和13年2月15日（火）

快晴。朝一時間子守り散歩。九時十分出発。昨中津局に行き、竹折君に臨時受け（払戻証書五厘抛棄）記載方を尋ね、松本君には日曜の取集時刻変更に対し質問し、通知洩れを警告す。此日五時帰宅。天気不良の予報あり。夜外出せず、悦子を室内にて遊ばす。巖余より遅れて帰宅。十時まで整理し居れり。

昭和13年2月16日（水）

曇り、朝無風。次第に風吹き四時過ぎ一段激し。寒気は割合強からず。永江氏殆ど半日以上不在、切手請求も其の中に含まる。永松馨氏、月曜日退職帰郷の為、切手係は男子にて不馴れにて、幾分待合時間を多費することは免れずと思料す。局ラジオ昨日より音声停止す。向かいの肉屋電話は本日売却せし由。今後臨機中津局との接衝に支障を来たすこととなる。便覧訂正九卷完了す。中尾氏より手紙あり。此夜巖帰宅遅れ、余先に夕餉を済ます。餅の馳走あり。風強し。

昭和13年2月17日（木）

風強し、天気は快晴。悦子を負い一時間外出。巖は八時出発、此日は八屋より一里半山奥まで赴く由。余は九時過ぎ柿餅を受取り出勤す。例により一時二十分出局。風依然猛烈。小倉より乗り換えには余裕ありしも、中津にては一駅立ちつくしたり。戸畑より乗れる客より話かけられ、箱崎まで一緒に話す。其箱崎も余の勧めに随って、八幡宮参拝に同意せしなり。石炭を注文し船を若松に廻付し積込みを了するまで二日間、熊本阿蘇等を遊覧せし意図なるらし。六百円の石炭購入手附金受領証を余に示す。正直な人らし。五時到着。六時半出発、安国寺に至る。山崎氏あり。少時して会長も来られ、星野氏も見ゆ。拳闘を見に行く積もりを、こちらに来れるなりと謂わる。参会者十二人、十時閉会。島井氏の柔道に対する話あり、其の道の達人なり。十時帰宅。寒風強し。

昭和13年2月18日（金）

曇り時々陽射す。風依然強く小雪を混ゆ。燈火管制予備演習、黒幕を張り廻らす。昨夜余の帰宅を俟つ秀夫と、橋詰先生よりの幹旋先に付き色々話あり。此の夜は、余早く寝る。子供等、調査員の立寄る迄寝ること出来ぬと、十時まで待居たるらし。

昭和13年2月19日（土）

風歇まず、陽時々射す。午後より碧空を望む。風次第に穏やかとなる。中尾氏、高羽駒次に手紙書く。夜澄子を残して風呂に行く。理髪し貰ふ。東京行きを話す。別に驚きもせぬ風情なり。

昭和13年2月20日（日）

快晴、名残の風全く歇まず。道子先に外出、澄久後より外出。警官戸口調査に来訪、余挨拶す。理髪す（昨日一分誤り）。布団陽に干す。五時風呂行き、髯剃りす。燈火管制を思念し日没前に行きたるものとす。宅にても準備したるも、此の夜は此の事あらず。二十五日までの間に三日間施行の由。

昭和13年2月21日（月）

霜白し。パンを頂き七時四十分出発。駅にて新聞を求め車中閲覧。局にて文書进行处理する間に、明日耶馬溪に会合の筈。巖午後葉書持込み、局に居据わる。五時飯る。日中戸外は暖かなりしも、家の中は依然冷氣強し。五時半夕飯。外出せず、悦子を家の中にて遊ばす。巖により負わさる。

昭和13年2月22日（火）

曇り、小雪朔風に伴って降る。八時半出発。中津局に至り西田氏に国債保管料を問ふ。九時に五分前、局に至り其の旨伝ひ、羅漢寺に片路四十五銭、往復は二割引を知らず十八銭損す。乗車するに豊後町、栄町あり、今津も来る、大貞駅前も見ゆ。十時前十分着。耶馬溪旅館に至りたるに誰も来て居らず。十時頃より漸く五人三人と見ゆ。十時半より開会。十二時より阿部書記監督の下に本会議に移り、一時午餐を共にして二時閉会。二時二十分発上りにて飯り出局す。天気曇り、風多し。夕食を廃す。風呂沸き入浴。



昭和13年2月23日（水）

晴れ、風多し。保険受入口数手当発令。其の他の分と一緒に現金を交付す。永井氏切手請求、十時頃より一時頃まで不来。午後四時五十分帰途に就く。頃日外出せず。悦子負わるるを喜ばざる如し。歩行が自由に出来る様になりたればなるべし。夜頗る冷ゆ。小炭火にては堪え難き位なり。

昭和13年2月24日（木）

朝の間曇り。次第に晴れ日中暖かになるも、家の中では余り変化なきごとし。昨ラジオ報、敵機八機台湾台北を襲い、四千メートル上空より爆弾十個を投下し、三十名の負傷及び死者を出せりと。今日も敵機十二機、膠州湾を東に向けて進みたるらしく、ラジオにて警戒警報あり。中尾氏より手紙あり。永江氏に不図（はからずも）上京するやもと咄す。局内寒きもストーブ焚かず、石炭欠乏の為か。

昭和13年2月25日（金）

朝より快晴。四十分間悦子を連れ散策。巖、和博も一緒に行く。九時出発、局かかり行く。永江氏十時切手請求に行く。午後五時退局。此日ストーブ焚く。風呂沸かし入浴。

昭和13年2月26日（土）

厳しき寒気なるも快晴。陽光の徹透する処、暖かなり。悦子を負うて一時間外出。巖七回忌見舞金寄贈、受取置く。金五円在裡す。貯金百円受取り。給料、局舎料及び木炭代五円通信手に支払ふ。一時の汽車に乗り遅れ、

三時十八分ので出発。此の間、巖への拾貳円振替口座に払込む。貳円は松田威治氏餞別立替金なり。六時四十六分帰宅。七時夕食を済まし、蜜柑十錢を餐す。

昭和13年2月27日（日）

朝、寒威凜烈なるも天気晴朗。気温暖か。正午久子連れ、岩田屋九州産闊葉樹家具試作品、展覧会を見に行く。販りに便箋白梅十五錢にて二冊求め、白玉粉十八錢二袋求め、十錢にて金つば土産に持参す。終日快晴、纖雲（せんうん）なし。夕食しるこ。

昭和13年2月28日（月）

此日も快晴。手紙書きす。道子に汽車時間表、25錢にて駅より求めさす。是れより出発時刻を案出す。当地九時十七分発。下関午後零時五十分、急行東京着午前九時三十分として通知したるも、道子の着物の関係より一日に至り、変更の余儀なきに至れり。午後十時過ぎ寢床。